



久美愛厚生病院が発行する私たちと地域を繋ぐ広報誌

澄々日和

すみひとみびより

特集 災害から地域を守る

1

2026 vol.5

外来診療担当医一覧表

受付時間 8:15~11:00 ☎0577-32-1115
救急の場合は24時間いつでも受付しております

2026年1月1日現在		月	火	水	木	金
内科	循環器内科(診察室32)	村田 欣洋	横山有見子	大井 拓馬	村田 欣洋	横山有見子 第1・2・5週 大井 拓馬 第3・4週
	呼吸器内科(診察室34)	垣内 大蔵	加藤 俊夫	横山 敏之	横山 敏之	加藤 俊夫
	消化器内科(診察室42)	横畑 幸司	喜田 裕一	喜田 裕一 第1・3・5週 横畑 幸司 第2・4週	喜田 裕一	横畑 幸司
	腎臓内科 診察室44	—	山田 勝己	代務医師 (午後)	代務医師 (午前)	山田 勝己
	神経内科 診察室45	代務医師 (午後)	代務医師 (午前)	代務医師 (午後)	代務医師 (午前)	—
	内分泌内科 診察室43	—	—	代務医師 第4週	代務医師 第2週	—
	血液内科 診察室43 糖尿病内科 診察室43	代務医師 (第1・第3金曜日) (午後)		代務医師 (第4金曜日)		—
心療内科	外来(予約制)2階診察室1	—	—	安藤 寿博	安藤 寿博	—
小児科	診察室14	—	—	代務医師 10:00~11:30	—	—
	午後診	—	代務医師 予防接種 15:00~15:30 予約診 15:30~17:00	代務医師 予約診 15:00~17:00	—	—
	1ヶ月健診	—	—	—	—	—
外科	診察室51	前田 孝	小林 聡	高木 健裕	小林 聡	関村 敦
	診察室52	楠 弘充	三品 拓也	日比野佑弥	関村 敦 (初診のみ)	高木 健裕
	血管外科 診察室53 乳腺外来 診察室52 形成外科 診察室51 シヤント外来 診察室53	第1・第3・第5金曜日 10:30~15:00 水曜日 13:30~15:00 (予約制) 毎週月曜日 10:30~12:00 (代務医師・予約制 ※診察日確認必要) 第2水曜日・第4火曜日 (予約制)		—		
	診察室71(再診)	永金 宗臣	田口 勝啓	箕浦 侑吾	田口 勝啓	永金 宗臣 初再診
	診察室72(初診)	箕浦 侑吾	永金 宗臣	田口 勝啓	箕浦 侑吾	—
整形外科	診察室73(再診)	—	—	五藤 弘	—	五藤 弘
	膝肩外来(診察室73)	第2金曜日 8:30~11:00 (代務医師) ※診察日確認必要				
脳神経外科	午後(予約制)	ギブス・装具(予約)14:00~	手術	手術	ギブス・装具(予約)14:00~	手術
	診察室62	国本 圭市	山本 昌幸	国本 圭市	山本 昌幸	国本 圭市
皮膚科	診察室61	宗宮 大輝	国本 圭市	宗宮 大輝	国本 圭市	宗宮 大輝
	診察室64	荒木 麻里	荒木 麻里	荒木 麻里	荒木 麻里	荒木 麻里
泌尿器科	午後診	15:30~16:30 学童対象	—	—	15:30~16:30 学童対象	—
	診察室82	山本 貴大	山本 貴大	山本 貴大 ※予約のみ診察	山本 貴大	山本 貴大
産婦人科	診察室77	岩佐 剛	岩佐 剛	岩佐 剛	岩佐 剛	岩佐 剛
	—	代務医師 ※婦人科診療のみ	—	—	—	代務医師
眼科	診察室23	尾崎 弘典	尾崎 弘典	尾崎 弘典	尾崎 弘典	尾崎 弘典
	診察室26	高島 隆	高島 隆	高島 隆	高島 隆	高島 隆
耳鼻咽喉科	—	代務医師 (第1・第3・第5木曜日) 14:30~16:30		—		
	耳鼻科専門外来 小児耳鼻科外来	代務医師 (第2・第4水曜日) 14:30~16:30 (完全予約制) 15:30~16:30	—	—	15:30~16:30	—

月に一度、正面受付に保険証のご提示をお願いします。

JA岐阜厚生連 飛騨医療センター
久美愛厚生病院

〒506-8502 高山市中切町1番地1 TEL:0577-32-1115

編集後記
新春とは名ばかりの、厳しいさむさの中、皆さん体調は大丈夫ですか?「健康は内臓から」と言いますが、最近ではサプリメントよりも、味噌や納豆、ぬか漬けなど昔ながらの発酵食品にハマっています。自然の力で腸内環境を整えて、体の中から元気に。じんわりと温まる感じも心地よく、寒い季節にぴったりです。毎日の食事に少しずつ取り入れて、冬を元気に乗り切りましょう! (編集後記 担当土田)

病院からのお知らせは、ホームページでもご覧いただけます。



久美愛厚生病院 検索
<http://www.kumiai.gfkosei.or.jp>



令和8年
ご挨拶

地域住民から信頼され 必要とされる病院づくり

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は本会の事業運営につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

医療を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進展に伴う医療需要の変化、医師の働き方改革や就労人口の減少などにより依然として厳しい状況が続いております。さらに、地域医療を担う医療機関では、人件費や物価高騰に伴う費用の増加や施設の老朽化など多くの課題に直面しております。

こうした状況のなか、本会では将来にわたり持続可能で質の高い医療を提供するため、国や県が推進する地域医療構想の方針に沿って、県内4つの医療圏において病床再編や病

院統合を進めてまいりました。本年2月には、東濃厚生病院と土岐市立総合病院を統合した新病院「公立東濃中部医療センター」が開院の運びとなりました。これもひとえに、関係各位のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。この新病院が東濃中部地域における新たな中核拠点として、地域の皆様の期待と信頼にお応えできるよう取り組んでまいります。

今後も社会情勢が大きく変化していくことが予想されますが、本会は、医療従事者の確保・育成・定着化や医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進をさらに進め、より質の高い医療サービスの提供に努めてまいります。そして、JAグループ、行政、地域の医療機関・介護施設等との連携を一層強化し、地域の中

核病院として「地域住民から信頼され、必要とされる病院づくり」に役員一丸となって取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き一年となりますよう心よりご祈念申し上げますとともに、本会事業に対し、今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

岐阜県厚生農業協同組合連合会
経営管理委員会
古川 敏之



特定看護師が支える

“地域の安心”

創傷管理関連区分 特定看護師

のなか
みな
野中 美奈さん



久美愛厚生病院 特定看護師インタビュー

研修を受けようと思っただけ

特定看護師は、あらかじめ「手順書」という医師の指示を受けており、医師の指示を待たずに一部の医療行為を行えるのが特徴です。久美愛厚生病院では、血糖コントロールに関する薬剤投与や脱水時の点滴などを行っています。

私は、「もっと専門性を磨きたい！」という思いから研修を受けました。久美愛厚生病院が研修実施施設に認定されたことで、勤務を続けながら1年間の研修が受けられたのが大きなきっかけでした。

研修で学んだこと

看護の知識に加え、身体診察や臨床推論（医師の診察の考え方）など、医師視点の学びを多く得ました。また、創傷管理の技術では、褥瘡や慢性創傷への処置を実践的に習得。1年間のカリキュラムを通して、知識と技術の両方を磨くことができました。

現場で感じるやりがい

糖尿病や高齢の方など、傷が治りにくい患者さんから「ちょっと見てほしい」と声をかけられることがあります。すぐに対応し、適切な手当で改善につながると、「やっていて良かった！」と感じます。

薬が必要かどうかを判断して医師に相談・提案できるのも特定看護師の強み。迅速な対応で、患者さんを待たせずに済む場面が増えました。

患者さんやご家族へのサポート

褥瘡ができた方が退院する際には、「ご自宅や施設での傷のケアを継続して見守ります。」「悪化していないか」「手当てが合っているか」を確認し、ご家族や介護スタッフとも連携しています。

専門の看護師が地域に関わることで、医師の負担を軽減し、患者さんの安心にも繋がります。

今後の目標

患者さんの一番近くで、生活に寄り添った看護を続けたいです。医師と相談しながら、地域と医療の橋渡しとなるようこれからも活動を広げていきたいと思っています。

メッセージ

地域のみなさまの身近な存在として、小さなことでもお気軽にご相談ください！外来受診時やお電話でも対応いたします。

特定看護師とは？

特定看護師とは、専門の研修を修了し、医師の包括的な指示のもとで、一部の医療行為を行うことができる看護師です。より迅速で質の高い医療を支えています。

災害から地域を守る

日本に住んでいる以上災害から逃れることはできません
災害から大切な人を守るためには日頃からの備えが大切です

久美愛厚生病院は災害拠点病院です

災害拠点病院とは、大規模な災害が発生した際に、都道府県知事が指定する医療救護の拠点となる病院のことです。災害拠点病院には基幹災害拠点病院と地域災害拠点病院の2種類があり、当院は平成26年に地域災害拠点病院に認定されました。地域災害拠点病院の主な条件は災害時に24時間緊急対応し、被災地内の傷病者を受け入れる体制を整えていること、災害派遣医療チーム（DMAT）を保有し派遣できる体制があること、そして災害時に必要な物資（燃料・水・医薬品など）を3日間程度備蓄することです。主な役割は、傷病者の受け入れと搬送、DMATの派遣、地域の医療機関との連携、高度な医療機能を提供することです。



DMATとは？

DMATとは「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字を取った災害派遣医療チームのことです。災害時にすぐ現地向かい活動できる医療チームのことです。平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」の際に初期医療体制の遅れにより、平常時の救急医療レベルが提供されていれば、救命できたと考えられる「避けられた災害死」が約500名存在した可能性があったと報告されています。この教訓を生かし、医師が災害現場で医療を行うDMATが創設

されました。DMATには事故や災害現場において、冷静な判断や行動、知識が求められるため、日々訓練を行っています。DMATのメンバーは原則として医師1名、看護師2名、業務調整員1名（薬剤師・臨床工学技士・事務員など）の4名で1チームを構成します。DMATに所属するためには、指定医療機関に所属し、研修を4日間受講後、筆記と実技試験に合格し資格を取ることが必要です。合格後も5年以内に資格更新のための技能維持研修を受ける必要があります。

DMATの主な任務

- 救命・応急処置から病院への搬送
- トリアージ（怪我の程度による緊急度の判定）
- 現場と医療機関、消防や行政との情報収集や伝達など

令和6年の能登半島地震では、久美愛厚生病院DMATが2度出動し活動しました。被災地向かう際、通行できるはずの道路が寸断されており、到着までに何時間もかかるなど予期せぬ事態も起こりました。活動中はサイレンやヘリコプターの音が鳴り止まず、度重なる余震で活動を中断せざるを得ない状況もありましたが、傷病者の搬送任務を遂行できました。



災害医療訓練について

当院では毎年、実際に起こりうる災害を想定し、外部ボランティアや地域の医療機関、消防署など多くの方々と協力して災害医療訓練を行っています。災害が発生し患者様が搬送された際、最初に「トリアージ」を行います。トリアージとは、多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の緊急度・重症度に応じ、適切な処置や搬送を行うために治療の優先順位を決めること”を指します。

トリアージタグ

- 赤タグ** 最優先：重症
- 黄タグ** 待機可
- 緑タグ** 自力歩行可：軽症
- 黒タグ** 救命困難



トリアージを行う際には「トリアージタグ」と呼ばれる4つの区分（色）に分かれたカードを使用します。それぞれのエリアに搬送し治療を行います。訓練を繰り返し、反省と振り返りを行うことで、さまざまな課題が明らかになります。災害拠点病院として、各職員が役割を把握し連携を取りながら、一人でも多くの方を助けるため、今後も災害への備えを強化していきます。

災害に備えた備蓄や設備

災害が起きた際に必要となるのは、まず人員の確保です。当院では、高山市・飛騨市・白川村全域で震度6弱以上の地震が発生した場合、自宅や家族の安全を確認した上で全職員が自主参集することになっています。ライフライン確保のため、非常電源用発電装置や上水道設備を備えています。食事に関しては、入院患者様の食事3日分を常時確保しています。災害時の調理等の対応は災害の状況やライフラインの復旧状況に応じて、炊き出しなど方法を調整します。



災害の「備え」チェックリスト

- | | | |
|---|--|--|
| <input type="checkbox"/> 水 | <input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく | <input type="checkbox"/> 感染症対策にも有効です/
<input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> 食品（ご飯（アルファ米など）・レトルト食品・ビスケット、チョコ・乾パンなど：最低3日分の用意!） | <input type="checkbox"/> 救急用品（ばんそうこう・包帯・消毒液・常備薬など） | <input type="checkbox"/> 手指消毒用アルコール |
| <input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット・防災ずきん | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 石けん・ハンドソープ |
| <input type="checkbox"/> 衣類・下着 | <input type="checkbox"/> ブランケット | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> レインウェア | <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> 体温計 |
| <input type="checkbox"/> 紐なしのズック靴 | <input type="checkbox"/> 洗面用具 | <input type="checkbox"/> 一緒に持ち出そう/
<input type="checkbox"/> 貴重品（通帳・現金・パスポート・運転免許証・病院の診察券・マイナンバーカードなど） |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯（※手動充電式が便利） | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉 | |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（※手動充電式が便利） | <input type="checkbox"/> タオル | |
| <input type="checkbox"/> 予備電池・携帯充電器 | <input type="checkbox"/> ペン・ノート | |

参考：首相官邸ホームページ<https://www.kantei.go.jp>より

新しく赴任された医師を紹介します



脳神経外科
そみや だいき
宗宮 大輝
(10月1日付)

2025年10月から久美愛厚生病院に赴任しました脳神経外科の宗宮大輝と申します。初期研修を瀬戸市の公立陶生病院で行ったのち、中京病院へ移動して脳神経外科専攻医として研修を行いました。その後、豊田厚生病院、名古屋大学病院、中京病院と移動し、このたび10月から高山へと赴任になりました。4月には再び大学病院へと戻るため半年間の勤務となりますが、飛騨地域の医療に貢献できるよう努めてまいりますので何卒よろしくお願いたします。



消化器内科 医長
こばやし わか
小林 和夏
(10月1日付)

10月より勤務をさせていただいております、小林和夏と申します。岐阜県での生活は初めてですが皆様の優しさ、また得られる学びに感謝の毎日です。少しでもお役に立てる様尽力して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

教室開催情報

「まめー移動健康教室」開催のお知らせ

テーマ 高血圧予防の食事と健康について	2月19日(木)13:30~15:30 清見地区・JA清見支店 申込先 JAひだ経営企画部 協同活動推進課 ☎0577-36-3020
参加費:ひとり200円(当日徴収します) 申込み切:開催日の1週間前まで ※開催場所が変更になる場合があります	3月19日(木)13:30~15:30 宮地区・わいわいルーム 申込先 JAひだ経営企画部 協同活動推進課 ☎0577-36-3020

「糖尿病教室」開催のお知らせ

3/12(木) 9:30~13:40
◎当院を受診されている方なら、どなたでも参加できます。
◎ご家族の参加もできます。
◎予約制です(参加を希望される方は、事前に内科外来、または栄養科へお申し込みください)。

高山市健康フェスティバルに参加しました

9/16
|
9/30



9月の健康増進普及月間に合わせ高山市で健康イベントが開催されました。久美愛厚生病院では認知症・禁煙・乳がんに関するポスターやリーフレット等の展示を行いました。禁煙ブースでは肺年齢を測定しました。測定した方は「(実年齢より肺年齢が)若く出てよかった、これからも健康に気をつけたい」といった感想がありました。また認知症の展示では足を止める方も多くみなさまの関心の高さが見受けられました。今後も飛騨地域の皆様の健康増進に貢献できるよう活動してまいります。



「飛騨春慶弦楽器出前コンサート」を開催しました

10/30



当院ではレクリエーションや創作活動等を通じて、穏やかな入院生活と心身機能の維持・回復を目的とした院内デイケアを毎週木曜日に開催しています。今回、芸術文化活動の一つとして、オーケストラ・アンサンブル金沢の皆様にお越しいただき、コンサートを開催しました。入院中の患者様だけでなく地域の皆さまとともに、間近で飛騨春慶弦楽器の音色を楽しみ、忘れがたいひとときを過ごすことができました。

J.M.S (ジャパンマンモグラフィーセンター) 乳がん検診を実施しました

10/5

ジャパンマンモグラフィーセンターは多忙な平日を過ごしておられる女性の皆様のために日本乳がんpinkリボン運動が全国の病院に呼びかけた「10月の第3日曜日に全国どこでも乳がん・マンモグラフィー検査が受けられる環境づくり」への取り組みです。当院もその思いに賛同し日曜日に乳がん検診を実施しました。今回の乳がん検診には、多くの方から高い関心をお寄せいただき、当初の予約枠が早期に満了いたしました。これを受け、より多くの方に診いただくため、追加日程を設けることとなりました。乳がんは早期発見・早期治療を行えば「ほとんどが治るがん」と言われています。この機会にみなさんも乳がん検診を受診してはいかがでしょうか。